

放射線疫学推進グループのご案内

放射線被ばくした人の疫学調査は、歴史的にみて、放射線作業、医療放射線（診断・治療）、原爆、核実験、放射線事故・汚染、および高自然放射線地域での居住などにより放射線被ばくした人について実施されてきました。

わが国においては、被ばく状況は大きく分けて、原爆被爆者、東電福島第一原発事故に関連する人々、原子力発電施設等の放射線作業従事者、医療放射線従事者、医療を受ける人々、および航空機乗務員などがあります。多くの場合に被ばく放射線量の評価や登録が行われ、可能な場合には疫学調査が行われています。さらに海外における高自然放射線地域住民の調査に関わっている疫学者もいます。

しかし、これらの活動は、歴史的経緯や法制度の状況から、特にわれわれのような疫学領域の研究者にはわかりにくい面があります。そこで、疫学関係者が情報交換を行い、現在行っている調査研究を円滑に遂行し発展させるとともに、将来的には、現在行われていない領域での放射線被ばくに関する疫学調査を推進することを目的として、日本疫学会内に放射線疫学推進グループを設置していただきました。

具体的な活動として以下のことを考えています。

- ・疫学会学術総会で放射線疫学関連の演題発表を行い、放射線疫学セッションが構成できるように努める
- ・グループの会合を持ち、相互の現況・活動について情報交換を行い、可能であれば共同研究等の活動に発展させる
- ・Japan - Korea Radiation Epidemiology Session の継続など、アジア各国の関連研究者との連携を図る
- ・医療被ばく（主に CT）の追跡および影響評価に関する疫学研究をどのように行えるかなど、新しい領域の疫学活動の可能性について考える

本グループの活動にご興味のある方は、下記のグループ代表者または以下の本グループの連絡担当メンバーにお問い合わせください。なお、グループの活動メンバーは、原則的に日本疫学会会員であることをお願いいたしますので、ご注意ください。

グループ代表者

小笹晃太郎

京都府立医科大学 保健管理センター 特任教授

〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上る梶井町 465

TEL 075-251-5080

E-mail: kozasa@koto.kpu-m.ac.jp

表 本グループの幹事

氏名 (五十音順)	所属	日本疫学会での活動歴	主な活動領域
小笹晃太郎*	京都府立医科大学、保健管理センター	会員・元理事	放射線影響の疫学的評価手法、放射線作業員調査
喜多村紘子	産業医科大学、産業医実務研修センター	会員	放射線作業員調査
三枝新†	放射線影響協会、放射線疫学調査センター	会員	放射線作業員調査
杉山裕美	放射線影響研究所、疫学部	会員・代議員	原爆被爆者調査
三根真理子	長崎原子爆弾被爆者対策協議会	会員	原爆被爆者調査
安村誠司	福島県立医科大学、放射線医学県民健康管理センター	会員・元理事	住民調査
横田賢一	長崎大学原爆後障害医療研究所、放射線・環境健康影響共同研究推進センター	会員	原爆被爆者調査
吉永信治	広島大学原爆放射線医科学研究所、計量生物研究分野	会員	原爆被爆者調査、住民調査

* グループ代表者 †グループ副代表者

2022年8月23日現在